

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した道徳教育の取り組みにより「ふるさと千代田の町や人が好き」99%や自己肯定感が向上するなど成果を出すことができた。</li> <li>・「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」99%と自分を高めていこうとする気持ちを高めることができた。</li> <li>・毎学期「学習頑張ろう週間」「自学ノートの推進」などを実施したが、家庭学習時間の目標達成ができなかった。課題として残った。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>「渾身勉強」「白鳥蘆花に入る」 ～ 「夢に向かって、気づき・考え・行動する」児童の育成～</p>
3 本年度の重点目標	<p>①自分づくり(得意分野をもち、仲間と未来を語る心優しい子の育成) ②仲間づくり(意欲的で、自信をもって自己表現できる子の育成) ③学びづくり(試行錯誤し、根気強く挑戦できる子の育成)</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者		
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上 (学びづくり)		●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学期末にマイプランを見直し、共通する課題等を研修会等で共有する。「授業づくりのステップ1・2・3」の振り返りを毎週行い、指導の手立ての確立の促進を図る。	B	・マイプランの達成は、78%であった。週末に行っている「授業づくりのステップ1・2・3」のチェックシートの活用及び相互参観・フリートークを推進させる。					学力向上Co
		○家庭学習の習慣化	○「学年にあった時間、家での勉強ができています」と回答する児童75%以上	・毎学期「学習がんばろう週間」を行い、家庭での学習時間と内容の確認を保護者で行う。「小学生新聞」の活用を、上学年において自読タイム等で行う。	A	・「学習がんばろう週間」「小学生新聞」の実施をすることができた。家庭学習時間を達成した児童が90%であったので、2学期以降も達成できるよう、保護者や児童への働きかけを。					学力向上Co
●心の教育 (自分づくり)		●児童の「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級・学校づくりの取組	○カード1年間に25枚以上 ○「心タイムアンケート」各項目90%以上	・「心タイム」等で、「ほかほかカード」「心の木カード」を書かせたり、スターシールを活用したり、エンカウンターや「自慢大会」などをしたりすることで、自己肯定感の向上を図る。	A	・「心タイム」でカードを書く時間を設定したことで意欲的にカードを書く児童が増えた。自発的によいことをする児童が増え、スターシールの効果が表れている。2学期は新しい内容のエンカウンターに取り組みたり、自慢大会を開催したりする。					自分づくり部
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていますと回答した教員95%以上	・毎月1回「心アンケート」を行い、その結果を生徒指導連絡会で全職員へ共有する。 ・SCや地域の方を含めた、年2回のいじめ防止対策委員会を行う。	A	・毎月1回「心アンケート」を行い全職員で共有することで、早期に対応することができている。 ・いじめ防止対策委員会で実施し、SCや地域の方とも共有することができている。					生徒指導 教育相談
		◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合95%以上	・各学期に「マナー教室」を実施し、学年や個人に応じた夢や目標を立て、実現に向けて何をどう行うか、考え努力を継続する。	A	・1学期のマナー教室を実施。将来の夢や目標達成のために何を継続して取り組むかを表明でき、通知表の自己評価にも生かした。次回の実施に向けて、児童の意識と実践の継続に努めていく。 ・「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合96%					
●健康・体づくり (仲間づくり)		●仲間のよさが実感できる体験活動の充実	○「友達と力を合わせて、生活や勉強ができています」と回答する児童の割合95%以上 ○「休み外で元気に遊んでいる」と回答する児童の割合90%以上	・縦割り活動を充実させるため、毎学期縦割り班対抗の種目を児童が主体的に計画し、実行する。 ・縦割り班を有効に活用し、体育的行事やスポーツチャレンジによる体づくりへの取組を行う。	A	・アンケート結果は97%だった。縦割りでのスポーツ大会を実施することができた。2学期も継続して、実施していく。 ・アンケートの結果は90.9%だった。体育大会での練習やスポーツチャレンジの奨励を積極的に行い、95%を目指す。					体育主任
		●「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動の充実	○ボランティアバスポート1冊以上100% ◎進んで元気なあいさつをする児童、あいさつ運動に取り組む児童90%以上	・ボランティア集会や放送で、委員会の児童がボランティアについて伝えるようにし、全児童が自主的にボランティア活動に取り組むようにする。 ・あいさつやあいさつ運動など、よい行いをしている児童を各学級や全校朝会などで紹介する。	B	・高学年の児童が進んであいさつをしている。スターシールを活用し、自主性を育みたい。 ・ボランティア活動に取り組んでいても、カードに記録をしていない児童がいるので、月1回ボランティア振り返りタイムを設定する。ボランティアバスポート一冊以上の児童100%をめざす。					
		●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時間を守る児童の割合80%以上	・保健だよりや長期休業前の生活の話などを通して、家庭での過ごし方(勉強やゲーム等の時間)のルール作りなどの啓発を行う。	A	・保健便りや長期休業前の話で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は87%だった。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・18:15の全職員退勤時刻と毎週金曜日の定時(17:30)退勤日を周知徹底し、実践する。	A	・概ね退勤時刻の実施徹底にめることができた。 ・全職員の平均時間外勤務時間を月平均2時間削減する。					教頭
		○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	・校務用フォルダの整理活用、提出文書や校務分掌の標準化を図り、各指導部で行事等に複数で対応するように努める。	A	・「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合11%(7月実施)だった。 2回目の「疲労蓄積度自己診断チェック」(12月頃)実施する。					教頭 養護教諭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
○地域の特色を生かした教育(仲間づくり)	○地域教材の活用(「次郎の里」教育の実践)	○「千代田の町や人が好きです」と回答する児童95%以上	・下村湖人生体験学習を、各学年1回実施する。	A	・アンケートの結果は97%だった。体験学習の声かけ、総合や生活科で千代田町に触れる実践を行っていく。						特別活動主任 教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--------------------	---